

生涯教育研修活動報告書

一般 検査研究班

- 1 実施日時： 令和4年2月4日 19時00分～20時00分
- 2 会場： Web開催 点数： 専門 — 20点
- 3 主題： 尿検査から読み解く！～症例検討会～
- 4 講師： 小針 奈穂美（埼玉医科大学病院）
中川 禎己（小川赤十字病院）
- 5 協賛： なし
- 6 参加人数： 会員 92名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：藤村和夫 小関紀之 室谷明子 柿沼智史 佐々木菜緒
渡邊裕樹 小針奈穂美 中川禎己
- 8 研修内容の概要・感想など

一般検査研究班主催の症例検討会が Web 環境にて開催された。

症例1は小針氏より急性骨髄性白血病の抗がん剤治療による腎性の急性腎障害を発症した症例についての講演であった。尿細管上皮細胞の尿沈渣像が提示され、尿細管上皮細胞の臨床的意義や急性尿細管壊死、抗がん剤など薬剤性腎障害についての解説があった。尿細管上皮細胞が多数出現していることかつ、大型で変性した尿細管上皮細胞の形態がみられた場合抗がん剤などの薬剤による腎症を考慮する必要があるとのことであった。

症例2は中川氏より脱水からの腎前性の急性腎障害を発症した症例についての講演であった。多数の尿細管上皮細胞、円柱のみられる尿沈渣像が提示され、それぞれの尿沈渣成分の説明、KDIGO診療ガイドラインによる急性腎障害診断基準を含めた検査値の解釈、補液による治療経過中の尿沈渣検査の解説があった。急性腎障害はFENa(ナトリウム排泄量)を測定すること、さらに臨床症状を参考にすることで腎前性または腎性の鑑別の参考になるとのことであった。

症例1・2は同じ急性腎障害の症例ではあるが、腎障害に至る原因が腎前性なのか腎性かによって尿沈渣中の尿細管上皮細胞の数や形態、背景が異なっているため、きちんと鑑別することで病態の把握につながる。また急性腎障害は命に関わる病態であり、原因の違いによっ

て治療も異なるため、バイオマーカーや FENa などによって鑑別し、病態の把握に努め、臨床に迅速に結果を報告することが重要であるとのことだった。急性腎障害の検査から診断までの流れを自身で考えながら学べるとても良い機会となった。

提出日 2022 年 2 月 8 日

文責：佐々木菜緒